－慢性咳嗽診療における喉頭異常感の重要性を考える Vol.1－ Cough-related laryngeal sensationsの改善は，慢性咳嗽患者のLeicester Cough Questionnaireスコアの改善と関連するか？

小川　晴彦[1)]，大倉　徳幸[2)]，藤村　政樹[3)]
石川県済生会金沢病院　内科[1)]，
Allergic disease research laboratory, Mayo Clinic, U.S.A.[2)]，
国立病院機構七尾病院　呼吸器内科[3)]

【背景】慢性咳嗽（CC）患者における，咳嗽の影響力（impact）を評価する手段として，Leicester Cough Questionnaire（LCQ）などの，cough-specific health-related QoL questionnaireの使用が推奨された（CHEST Guideline and Expert Panel Report 2015）.
【目的】咳嗽に随伴する喉頭異常感（Cough-related laryngeal sensations；c-LS）の改善が，CC患者のLCQスコアの改善と関連するかを明らかにする。
【方法】2014. 3.1- 11.までに，県外から来院した35名の喉頭異常感を伴う難治性慢性咳嗽患者を対象とした。c-LS質問票（c-LSQ）は，1）Irritation in the throat，2）Tickle in the throat，3）Throat clearing，4）Catarrh down throat，5）Urge to cough（UTC），6）Something being stuck in the throat，7）Sensation of mucus in the throat（SMIT）の7項目からなり，その強さをスコア化（0-5）した。初期治療3週間後に患者から郵送されてきた，c-LSQの各item，およびLCQ日本版（J-LCQ；新実，小川）の各domain（total, physical, psychological, social）のスコアにつき，初診時からの変化（改善度）をΔで表し検討した。また，健常人13名を対象とした。
【結果】1）健常人（J-LCQ21点）のc-LSQの各itemのスコアは低値であったが，CC患者は，種々のc-LSQを訴え，そのscoreは健常人に比較し有意に高かった。2）c-LSQの中でもΔUTC，ΔSMITは，J-LCQのΔtotalおよび全てのsub-domainのΔと相関し，ΔIrritationは，J-LCQのΔtotal，およびΔpsychologicalとΔsocialと相関した。
【結論】CC患者に随伴する様々なc-LSQの中でも，“Irritation”，“UTC”，および“SMIT”の改善は，CC患者のLCQスコアの改善と関連がある可能性が示された。